

平成28年度教育に関する事務の管理及び執行状況の 点検及び評価 有識者意見

明石要一（千葉敬愛短期大学）

1 小学校における英語の授業の推進

六年生の英語の授業をみせてもらった。男子の教師であった。大学で英語の免許を取っていない教師であった。

率直に言って、期待以上の授業をしてくれた。理由に次の三つ考えられる。

まず、教師がうまく子ども達の意見をうまくくみ上げていた。教師と子どもの信頼関係が築けている。学級の集団づくりがうまくいっている感じである。

次に、ACTを使った千代田区固有の英語の教材がよくできている、と思う。よい教材がそろると子どもの学習が進む。

三つ目はボランティアの支援があった。学習に戸惑う子どもに支援員の人が対応している。教師の目が届かない所をカバーしている。

小学校3年生から英語授業が加わってくる。よい英語教材の提供と力を持った教師の育成それから英語学習支援員の確保をすれば、日本人教師の英語教育が可能となるだろう。

2 放課後子ども教室の充実

アフタースクールこうじ町の放課後子ども教室を見学した。そこから見えてきたこと。

1) 放課後の子ども達の生活を多様な仕組みで充実したものにしている。

一つは、宿題や自学をおこなう学習活動のコーナーを用意している。

二つ目は、放課後遊びたい子どもの要求を満たすコーナーを用意している。

三つ目は、「学童クラブ」の子ども達に「お八つ」を用意している。

一つの空間で、学習支援と放課後の遊びとお八つを中心とした「保育」という三つの機能を満たしている。しかも、各地で行われている保護者たちが参加する「自前」の学童保育でなく、外部機関に委託している。これは財政的に余裕のある千代田区だから可能なかもしれない。

3 いじめ防止対策推進法のさらなる具体化への要望

いじめ発見は難しい。それ以上に難しいのが「いじめ情報」の共有化である。いじめ問題はややもすれば一人の教師や一部の教師が抱え込みがちである。これでは解決は無理である。いじめ情報を教師全体で共有する仕組みづくりを考えて欲しい。これができれば、日本の教師は優秀なので、いじめ解決が可能となる。

湯川 嘉津美(上智大学)

平成 28 年度の点検・評価事業について、検討した結果、いずれの事業も計画に即して着実に実施されており、達成度も高い水準にあると判断する。また、事務の管理執行も適正になされている。なかでも、保育所の待機児童ゼロの取り組みや、放課後の居場所づくりの事業については、高く評価することができる。以下では、今後の事業展開に期待することを述べて、意見としたい。

(1) 代替園庭利用の公園・児童遊園の改修について

区は、民間保育所の誘致により保育所の整備を行い、保育需要に応えているが、新たに開設された私立認可保育所等には園庭のない施設が多く、園児の遊び場確保が大きな課題となっている。そうしたなかで、区はそれらの保育施設が代替園庭として利用している公園・児童遊園の整備や禁煙時間帯の設定などを行い、遊び場確保に力を入れているが、整備に関するパブリックコメントに喫煙対策などパトロールの強化を求める要望が一番多く寄せられていることからみて、子どもが安心して安全に遊ぶことができる環境の一層の整備が求められているといえよう。公園や児童遊園が喫煙所として利用されている状況をみるにつけ、喫煙対策を早急を実施して、子どもの安全な遊び場の確保に努めていただきたい。

(2) 放課後の居場所づくり事業について

区は、学童クラブの拡充を行い、「待機児童ゼロ」を実現している。また、私立学童クラブの運営補助や放課後子どもプランを実施し、保護者の多様なライフスタイルに応じた子育てができる環境を整えている。放課後子どもプランについては、今回、麴町小学校における放課後子ども教室およびアフタースクールこうじ町の視察を行い、学校施設を利用した居場所づくり事業の有用性を実感した。放課後子ども教室は、学校施設を活用して「学び・遊び・体験」活動が専門指導員を配置してなされており、放課後の子どもたちの活動を支援するものとなっている。また、アフタースクール(学校内学童クラブ)についても、学校内にあるため、安心して通うことができ、校庭や体育館を利用した身体運動も十分にできる利点がある。

学校内学童クラブについては、今後も需要の増大が見込まれるため、専用スペースを拡充して、定員の拡大を図る必要があるが、同時に、学校内学童クラブや放課後子ども教室が放課後の子どもたちの居場所として真に相応しいものとなっているか、活動内容の検証などを行い、本事業のさらなる充実に取り組んでいただきたい。

(3) 国際教育の推進について

区は、国際教育の推進事業として、中学生海外派遣・受入や ALT (外国人指導助手) 派遣、小学校外国語活動コーディネーター派遣、英検資格取得支援な

どを実施している。次期学習指導要領では小学校の英語活動の時数拡大が予定されていることもあり、小学校における英語活動の充実がこれまで以上に求められている。そうしたなかで、ALT の派遣時数の拡大が必要となるが、また、小学校教員の小学校児童英語への理解と指導力の強化を図る必要がある。今回、富士見小学校における英語授業の視察を通じて、担任教員が子どもの英語への興味を喚起しながら、楽しく授業が展開されている様子を窺うことができたが、こうした中学校の英語授業とは異なる小学校英語活動の指導法の確立と教員の指導力の向上が今後の課題となるだろう。さらに、小学校の英語活動を中学校の英語教育にどのように繋げていくのか、小学校と中学校の連携による英語教育の新たな取り組みに期待したい。

以上

村上祐介（東京大学）

今年度は、昨年度に引き続き保育・子育て政策と、学校教育（体力向上、英語教育）について意見を述べることにしたい。

1. 保育・子育て政策について

待機児童問題については、区として保育施設の整備や保育士の確保などに重点的に取り組んでおり、昨年度も待機児童ゼロを達成するなど成果を挙げている。ただし今後も量的な拡大は続くと思われ、引き続きいっそうの財政措置が必要である。教育委員会としても、財政支出の必要性を引き続き訴え、予算措置をより充実させていくことが求められる。

また、合わせて質の確保についても取り組みをお願いしたい。千代田区の特徴は、自治体の規模に比して保育施設の形態が多様であり、また速いペースで整備が進んでいることにある。そのような状況の中では、とりわけ認可外施設や小規模保育における保育の質確保を図ることが重要である。現状では認可・認証保育施設だけでは保育サービスを供給しきれない現状があり、認可外施設や小規模保育も区の保育・子育てにとって大きな役割を担っているが、それゆえに質の確保については指導や監査の体制をより強化していく必要がある。この点に関して千代田区では、公立保育所園長を務めたOB職員が巡回指導を行っているが、できる限り公私問わず区内全ての幼稚園・保育所等に関して、保育に関する指導助言の機会を確保・充実していくことが必要ではないだろうか。またそのための人材の手当てと予算の確保も求められる。

学童保育については、現在でも整備・充実が進められているが、乳幼児の増加にともなって数年後にさらにニーズが拡大していくことが予測される。現在は、全ての区立小学校内に学童クラブを設ける方針で運営が進められているが、今後ニーズが増加した際にもそのような体制を維持することができるよう、今後必要な整備については早めに手を打ち始める必要がある。

また、学童クラブの運営は外部委託されており、現地視察の範囲ではスタッフに教員経験者を配置するなどその質は確保されているように見受けられた。現時点では外部委託で問題は生じていないとのことであったが、量的なニーズが拡大しても現状の水準を維持できるような施策を展開する必要がある。学童クラブは地域や保護者の実情により最適な運営形態は自治体により異なると思われるので、千代田区のこれまでの経緯や現状をふまえた運営を行っていくことが重要である。

2. 学校教育について

学校教育については運動能力・体力と英語教育について述べたい。

運動能力・体力面については、千代田区は東京都平均に比べても成績が下位にある状況で、学力以上にその向上が急務になっている。オリンピック・パラリンピック関連の施策・予算等も生かして、児童生徒の運動能力・体力に関するより詳細な現状分析と、その向上に向けた施策を展開することが期待される。区の立地上、大規模な運動場や校庭の確保が難しいために困難も大きい、たとえば狭い場所でも可能なスポーツを積極的に推進して

いくといったことが考えられる。また、その反面で都心に立地するため専門家などのアドバイスが得やすい環境でもあるので、これまでも行われているが、外部の専門知をより積極的に取り入れていくことも検討されてよいと思われる。

英語教育に関しては、次期学習指導要領改訂で小学校での教科化が予定されており、他の自治体と同様、それへの対応が大きな課題となる。千代田区は区内に多くの大使館等があり、区内や周辺に外国人も多数居住しているため、その特性を生かした英語教育を行っていくことが期待される。また、英語以外の外国語に触れる機会も千代田区では近くにあり、英語に限らず、外国語習得の必要性や意義を身近に感じやすいこともメリットである。外部人材や ICT の活用、また小中連携の推進など区教委の役割は極めて重要であり、千代田区の特長や強みを活かした英語教育や外国語活動の展開を期待したい。

武内志穂（株式会社三菱総合研究所）

■全般

平成28年度の9事業11施策のうち、5施策が「保護者の多様なライフスタイルに応じた子育てができる環境を整える」ことを目的としており、主に増大する保育需要に対応するものであったが、時代の流れに非常によく合致していると評価できる。

本年4月から施行された「女性活躍推進法」において、301人以上の労働者を雇用する企業・団体に女性の活躍推進（実態の把握と行動計画の策定）が義務付けられた。各企業では、法対応という側面のみならず、経営戦略として女性活躍推進に取り組んでいるが、そのベースとなる「就業継続」は自治体による保育支援に負うところが大きであると日々感じている。待機児童ゼロに向けての保育所の拡充や、居宅訪問型保育事業（いわゆるシッターサービス）の活用、長じての学童クラブの拡大という一連の保育支援施策の継続的な取り組みを期待する。

■放課後子どもプラン

見学させていただいた「麹町小学校の放課後子ども教室」は、学校施設を利用した「遊び」「学び」「体験」活動で、非常に有効であると感じた。専門性を持つ指導員による適切な指導は、委託事業として実施するメリットが活かされていると思料する。楽しそうに活動する子どもたちの様子からも、これらの活動が学力・体力、コミュニケーション力の向上にも役立っていることがうかがわれた。きめ細かい管理・運用体制も保護者の安心につながっていると思われる。

利用者のニーズや指導員の改善意見等を取り入れながら、拡大・充実を図っていただきたい。

■国際教育の推進

千代田区の国際教育推進施策は、小学校から中学校までメニューが非常にバラエティに富んでおり感心した。そのなかで、富士見小学校で見学させていただいた英語教育は、学級担任を中心として、子どもたちが臆せずいきいきと取り組んでいる姿が印象的だった。

小学生の英語教育は、そもそもの指導者不足や教育方法の課題、ALTの手配等、一自治体の努力だけでは解決が難しい面もあると思われるが、グローバル化に向け英語活動時数は拡大の一途であり、重要度が増していくことは確かである。英語に慣れ親しむことを目的とした小学校での学びを、読み書き・文法が加わる中学校での学びに円滑につながるような工夫・連携を望みたい。

千代田区は東京の中心地であり、先進的な取り組みと成果を期待する。

千代田区の共育ビジョンにある、「めざす子供達の姿」は、一人ひとりがよりよく生きていくと同時に、社会が求める人財像の基礎となるものであると感じる。

- 1 人と人とのつながりの中で生きる－流されない強さと他者への思いやりの心を持ち、人と人とのつながりを大切にする人
- 2 自分自身と向き合う－自己肯定感と忍耐力を備え、様々な課題に意欲的に取り組む人
- 3 新しい時代を生き抜く－高い志を持って主体的に理想の実現に向けて努力し、新たな価値を創造する人

このような人作りに向けた、丁寧な教育施策の継続的な実行に期待する。